

百済寺北門跡から北へ延びる道路を発見 —禁野本町遺跡 百済王氏の方形街区の古代都市—



禁野本町遺跡第239次調査で発見した南北街路の路面と西側の側溝（第1調査区 南から撮影）

禁野本町遺跡は、百済（7世紀後半に滅んだ朝鮮半島南西部の古代国家）王の末裔である百済王氏らが築いた方形街区の古代都市遺跡と推定されています（裏面、図1）。百済王氏は、平安京を築いた桓武天皇を支えた有力氏族です。

昨年9月1日から10月10日まで実施した発掘調査（禁野本町遺跡第239次調査）で奈良時代後半から平安時代初期（8世紀後半から9世紀前半）頃の南北街路の路面の一部と西側の側溝が見つかりました（図2）。この南北街路は、遺跡の南側にある百済寺北門跡からほぼ真北へ延びていた平安京の朱雀

大路に当たるこの街のメインストリートの一部です。発掘調査区で見つかった路面の幅は2m程に留まりますが、百済寺跡の中軸線を手掛かりにすると、約12m（4丈）と推定されます。これは、平安京の小路に匹敵する規模です。

禁野本町遺跡では、これまでの発掘調査によって、この街路の北延長部やそれに直交する東西街路の一部も確認しており、京都や奈良の都と同様に碁盤目状の方形街区で整備した都市があったと指摘されてきました。今回の発見は、その存在をより明瞭に裏付けるものとなりました。



今回の調査地と百済寺跡の航空写真（北から撮影）

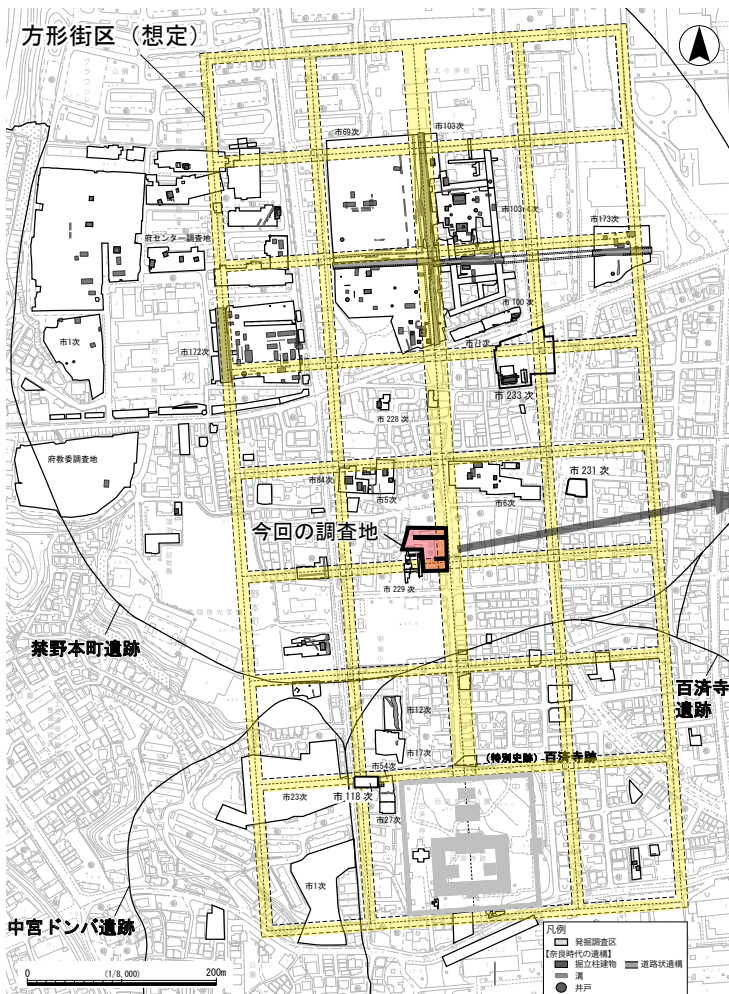


図1 百済寺跡・禁野本町遺跡を中心に想定される方形街区

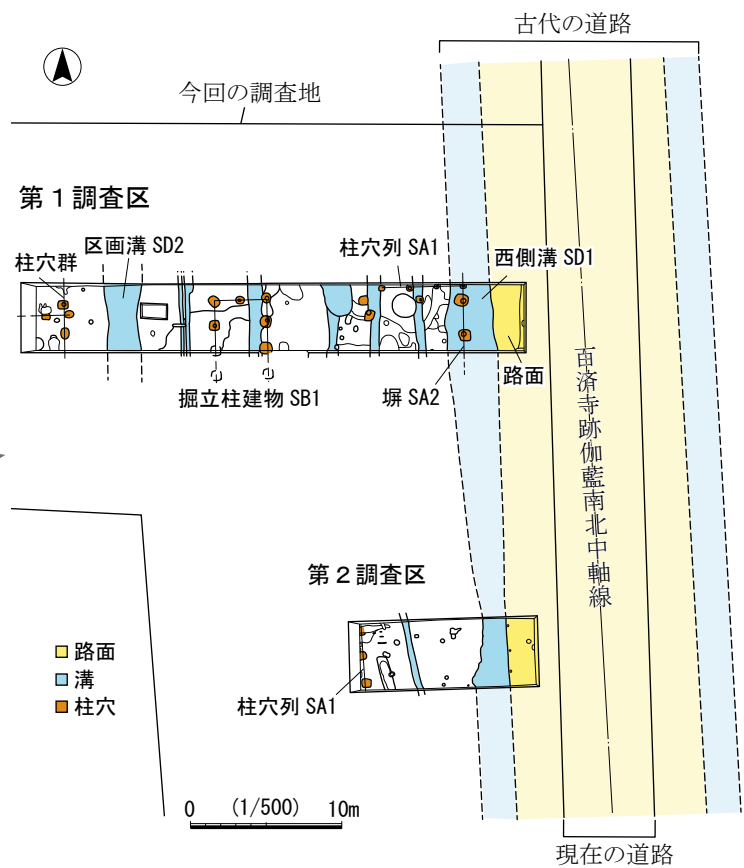


図2 禁野本町遺跡第239次調査 遺構平面図



掘立柱建物 SB1 (第1調査区 南から撮影)

街路の西側には、同じ時代の掘立柱建物を配する宅地が整備されていました。平安京や平城京などの都のように条坊制が採用されていたことがわかります。



西側溝 SD1 出土土器 (第2調査区 北から撮影)

路面の西側の側溝からは、8世紀後半から9世紀前半頃の土師器皿、須恵器坏や壺が出土しました。この頃には、路面や側溝からなる道路として利用されていたと考えられます。

文化財 コラム

枚方が塚?! ~五榜の掲示から分かること~

これは、五榜の掲示の第二札（傘有：高44cm、幅88.3cm）の写真です。五榜の掲示とは、慶応4年（明治元・1868）3月に明治新政府が民衆の守るべき内容をまとめた5枚の高札のことをいいます。その内容は①五倫（儒教の教え）を守ること、②徒党・強訴・逃散の禁止、③キリスト教の禁止、④外国人に危害を加えることの禁止、⑤士民の居住地脱走の禁止です。特に第一札・第二札・第三札は「定三札」といわれ、永年掲示とされていました（明治6年（1873）まで掲示されていました）。



ここで注目したいのは、発令元の「堺県役所」。「堺県」とは慶応4年6月から明治14年2月まで存在した県で、本市域のほとんどが属していた河内県は、明治2年8月に堺県に合併されました（本市域がすべて堺県に所属するのは明治4年）。考えてみると、五榜の掲示が出された慶応4年3月には、まだ「堺県」になっていません。写真をよく見ていただくと、堺県役所と書かれた一画は、板の表面の色が薄くなっており、削られていることに気がつきます。おそらく当初の発令元は太政官であったものを修正して使っていたようです。江戸時代から明治時代への過渡期の資料として、とても貴重なものです。

今回紹介した五榜の掲示の第二札は市内の旧家からご寄贈いただきました。このほか五榜の掲示の第一札・第三札、「火付・盗賊・殺人や贖金を作った者を見聞きした場合は、すぐに捕え役所に差し出すか、役所に言いつけなさい」という内容の高札、古文書類も同時にご寄贈いただき、市史資料室で保管しています。

イベント
開催予定

お知らせ

イベント名	開催日
輝きプラザきらら展示ルームで開催しています	
① 文化財展示会 「よみがえる百済寺 - 復元築地塀完成記念 -」	9/30 (月) まで
南部生涯学習市民センターで開催しています	
② ミニ文化財展示 「あなたの近くの弥生時代 ～ひらかたスタイル～」	開催中
津田支所で開催しています	
③ ミニ文化財展示 「津田城とその周辺」	開催中
旧田中家鋳物民俗資料館で開催します	
④ ちよこつと展 「竹の道具」	4/20 (土) ~ 7/7 (日)
中央図書館で開催します	
⑤ 古文書入門講座 (全5回)	5/27、 6/3・10・17・24 (月)

◆文化財展示会「よみがえる百済寺 - 復元築地塀完成記念 -」



展示をリニューアル。弥生時代の建物や土器など、その生活の一端を紹介します。

輝きプラザきららの展示ルームでは、特別史跡百済寺跡の復元築地塀の完成を記念し、令和6年9月30日(月)まで開催。これまでの調査成果や復元整備の様子を出土遺物や写真パネルで紹介いたします。期間中には、金銅製飾金具など貴重な遺物が見れるかも!?

また南部生涯学習市民センターのロビーで行っているミニ文化財

事業報告

◆旧田中家鋳物民俗資料館 1/27 (土) 80人 文化財防火デーに伴う消防訓練

1月26日の「文化財防火デー」は、昭和24年に、法隆寺の金堂壁画が火災によって焼損したことをきっかけに制定されました。この日にあわせて、毎年、全国各地で文化財防火運動が実施されています。

当日は主屋から出火したとの想定で、資料館職員による初期消火や通報訓練、枚方東消防署・枚方市消防団菅原分団による放水訓練、民俗資料の搬出訓練を行いました。主屋へ一斉に放水されたときには、訓練を見に来た子どもたちから歓声があがりました。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、文化財も甚大な被害を受けています。国民共有の貴重な財産であり、地域のみなさんにとっては心の支えや誇りである文



化財を火災、地震、その他の災害から守り、未来へ継承していくことの大切さをあらためて感じました。

◆考古学講座 2/20・27 (火) 10人 「中世のひらかたを学ぶ」

1日目はまず、枚方の中世について概説しました。発掘調査の写真や出土した遺物を見ながら、「楠葉の御牧の土器つくり」と歌われた楠葉遺跡群の発展や、九頭神遺跡、枚方寺内町遺跡など、枚方市内に広がる遺跡の様子を学びました。参加者は熱心に職員の話聞いていました。2日目は瓦器を中心に土器について解説し、実物に触れ、質感や重さを体感していただきました。その後、遺物の復元作業の体験を行いました。欠けた部分を補填材で埋め、元の形に近くなるようカッターなどで補填部分の表面を削り成形するなど、工程が複雑でしたが、参加者は真剣なまなざしで作業に取り組んでいました。参



加者が考えたことや感想、質問が職員に投げかけられるという、にぎやかな場面もありました。

編集後記

上半身裸で下帯姿の男衆が「ジャッソー、ジョヤサ」の勇ましい掛け声を上げ境内を巡り、押し合いながら「蘇民袋(護符が入った麻袋)」を奪い合う岩手県奥州市水沢の黒石寺の奇祭「蘇民祭」が2月17日夜開催された。関係者の高齢化や担い手不足で今回が最後となり、千年以上続くといわれる歴史に幕を下ろした。「岩手県の蘇民祭」の名称で国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されているが、県内では、1月から3月にかけて10以上の寺社で行われている。コロナの影響もあり、全国各地で祭りの存続が危惧される中、枚方市では令和3年度から「祭り」に焦点を当て、市内に残るダンジリや神輿、祭礼等の調査を行っている。この内容については、今後報告書をまとめ、ホームページ等で公開したいと考えている。